佛教大学社会福祉学部論集　第20号（2024年3月）

論　文

社会的養護経験者による「伝えたいこと」と支援課題

――全国調査自由記述内容の分析結果から――

伊　部　恭　子

〔抄　録〕

本研究は，2020年に実施された社会的養護の措置を離れた人を対象とする全国調査結果から，「国・自治体・施設等に『伝えたいこと』」への自由記述内容（544人が回答）を分析し，本人が「伝えたい」ことは何かを明らかにし，支援のあり方を考察した。

定性的コーディングの方法により分析した結果，「伝えたいこと」は，国・自治体・施設等に向けたものにとどまらないことが明らかになった。その全体像は，（1）施設等に「伝えたいこと」（児童相談所，一時保護所，里親（里親委託・里親制度を含む），施設（職員）），（2）国・自治体・社会に「伝えたいこと」（社会的養護に関する支援・制度・環境整備のあり方，子ども・若者への政策・支援のあり方，社会福祉のあり方），（3）私自身の思い・気持ちについて「伝えたいこと」，（4）本アンケート調査について「伝えたいこと」である。

社会的養護や，子ども・若者への支援のあり方について「伝えたいこと」からは，措置解除後の支援の改善・充実にとどまらず，入所中から退所に向けた支援の充実，支援体制としての職員へのサポートの充実，偏見・差別を無くすための社会に向けた意見など，子どもの最善の利益を保障するための福祉のあり方を検討するうえで重要な示唆を得ることができた。

キーワード：社会的養護，自立支援，生活支援，伝えたいこと，全国調査

I. 研究の背景と目的

1. 研究の背景

施設や里親等，社会的養護を離れた子ども・若者のおかれている状況の実態と支援の必要性については，予てより指摘されていた（古川ほか 1983，松本 1987，村井ほか 2005，西田ほか 2011，谷口 2011，永野 2017，大村 2015・2017，伊部 2018）。

近年の政策動向をみると，2016 年の児童福祉法改正，2017 年の「新しい社会的養育ビジョン」を受けて，施設や里親等のケアを離れる／離れた子ども・若者への支援，いわゆる自立支援の強化がなされた。2017 年度には社会的養護自立支援事業実施要綱，身元保証人確保対策事業実施要綱が定められた。また，その翌年には，都道府県社会的養育促進計画の策定要領が通知されている。

また，この間，自治体による施設等退所者を対象とする調査から実態が浮き彫りになり，社会的養護を経験した当事者が主体となった活動等も展開されてきた(1)。

こうした状況のなかで，2020 年，国は初めて，児童養護施設や里親委託等の社会的養護の措置を離れた人のおかれている状況，実態とニーズを把握し，支援体制や支援のあり方を明らかにすることを目的とした全国調査を実施する。この調査は，①「本人記入調査」（施設等退所者本人が回答），②「支援者記入調査」（施設や里親等の支援者が個々の施設等退所者に関して回答），③「自治体記入調査」（児童相談所設置自治体が回答）の 3 層にわたる重層性を特徴とした。3 種類ともに全数調査で，ほぼ同時期（①，②は 2020 年 11 月 30 日～2021 年 1 月 31 日迄，③は 2020 年 10 月 22 日～2020 年 11 月 20 日迄）に実施された。調査結果では，施設等退所者のおかれている深刻な生活状況と，支援に関する様々な課題が明らかになった(2)。

2022 年 6 月の児童福祉法改正では，児童立生活援助事業の対象が拡大され，年齢や事業実施場所の要件の弾力化が規定された。また，新たに社会的養護自立支援拠点事業が創設され，施設等退所者の交流や相談支援，情報提供，一時的な居住の確保，他機関との連携や連絡調整などにより生活支援を行うことが規定された。これらの事業は都道府県等により 2024 年度からの実施とされている。

これまで，社会的養護の支援は，児童福祉法による「児童」，すなわち「18 歳未満」（児童福祉法第 4 条）における年齢を範囲としたものが中心であった。施設等の措置を離れた後の支援は「アフターケア」として位置づいてはいたものの，当事者のニーズやおかれている状況に添った支援には至っていなかった。措置延長や自立援助ホームの利用など 18 歳以降の支援も制度上はあるものの，必要とするすべての子ども・若者に十分に活用されているとは言い難い。

2020 年の全国調査では，そうした支援課題の一端を浮き彫りにし，2022 年の法改正による児童自立生活援助事業の拡大や，社会的養護自立支援拠点事業の創設につながった。社会的養護におけるケアを離れた子ども・若者への支援は制度的にはようやく途に就いたといえる。

制度が創設されたとはいえ，今後は実際にそれを必要とする当事者に周知され，利用できるものとならなければならない。また，当然ではあるが，社会的養護経験者のおかれている状況をふまえ，当事者のニーズに即した支援のあり方や制度であることが不可欠である。

筆者は，2020 年の全国調査における施設等退所者本人が回答した調査結果から，自由記述回答内容に焦点を当てて検討を進めてきた。報告書に記載されている自由記述は，3 種類の質問への回答一覧である。3 種類のうち，これまでに受けたサポートについてよかったこと・改善してほしいことを尋ねた結果の回答一覧（回答者数 425 人）と，現在の暮らしのなかで困っていることや心配・不安について尋ねた結果の回答一覧（回答者数 373 人）は，定性的コーディングにより分析を行った。自由記述回答からは，アンケート調査における選択肢項目への回答からからは見出しにくい当事者個々のニーズや支援課題が見いだされた（伊部 2022, 2023）。

本研究では，残された 3 つ目の自由記述回答の分析を行う。調査票の質問項目は，「最後に，国や自治体（都道府県や市区町村），施設等に何か伝えたいことがあればメッセージを自由にご記入ください」というもので，本人記入調査票（全 48 問）の最後の質問であった。質問数も多く，回答者の負担や疲労が想像できるが，回答者数は 544 人と，他の自由記述よりも多かった。

本稿では，この 544 人が回答した自由記述内容の分析により，調査回答者の思いやニーズをくみ取り，課題を見出し，制度や支援のあり方につなぐことを志向する。

2. 研究目的と意義

本研究の目的は，先述のように，全国調査の結果による自由記述内容の分析において，もっとも回答が多かった国・自治体・施設等に「伝えたいこと」はどのようなものかを明らかにし，社会的養護において何が求められているのかを検討する。社会的養護における支援のあり方を考察する探索的研究である。

全国調査における本人記入調査の調査票の最後に，記入した回答内容が「伝えたいこと」である。そこに何が記入されているのか，当事者の率直な思いやニーズの一端を理解することで，支援のあり方を考えるための基礎資料とする。

II. 研究方法

1. 調査協力者

調査協力者は，国・自治体・施設等に「伝えたいこと」への質問に自由記述で回答した544人であり，その回答内容を分析対象とする。自由記述回答内容は，報告書に資料として掲載されており，倫理的配慮から，その他のアンケート調査結果との紐づけはなされていない。そのため，調査協力者の属性や退所年度，社会的養護の施設種別等は不明である。

本人記入調査の対象者数と回答者数は表1の通りである。調査対象者20,690人（a）中，回答者数は2,980人（d），回答率は14.4％（d/a）であった。調査票案内数7,385人（b）に対する回答率（d/b）は40.4％となっている。

表1　本人記入調査の対象者数と回答者数　（単位：人）

対象者数（a）	調査票案内数（b）	調査票が届いていない数（c）	回答者数（d）
20,690	7,385	13,305	**2,980**

「国・自治体・施設等に『伝えたいこと』」への自由記述回答は544人であった。これは，本人記入調査の回答者数の18.3％である。他の2つの自由記述では，「よかったこと・改善してほしいこと」への回答が425件（14.3％），「現在の暮らしの中で，困っていることや心配・不安」への回答が373件（12.5％）であった（表2）。

表2　自由記述回答者数　（単位：人）

本人記入調査 回答者数	自由記述回答 i よかったこと・改善してほしいこと	自由記述回答 ii 現在の暮らしの中で、困っていることや心配・不安	**自由記述回答 iii 国・自治体・施設等に伝えたいこと**
2,980	425（14.3％）	373（12.5％）	**544（18.3％）**

2. 分析方法

分析方法は，佐藤による定性的（質的）コーディングを参考に行った（佐藤2008）[3]。定性的コーディングの実施に際しては，以下の①～③の手続きをふまえた。

①自由記述回答の原文を意味内容ごとにセグメントに分け，「コード」を生成した。

②「コード」間の関係性および比較を行いながら，「カテゴリー」を生成した。

③「コード」と「カテゴリー」の全体像を統合した。

分析プロセスでは，これらの①～③の手続きを繰り返し行っている。その際，定性的コーディングに熟知した研究者による助言を受け，結果の信頼性と妥当性に努めた。

分析の対象となる自由記述回答の質問項目は，先述のように「最後に，国や自治体（都道府県や市区町村），施設等に何か伝えたいことがあればメッセージを自由にご記入ください」である。自由記述のなかには，主語がはっきりせず，どこに向けられたものかの判読が困難なものが含まれていた。その場合は，以下の（i）～（iii）の手続きをとった。

（i）自由記述内容が，施設（職員）のことを示しているのか，里親のことを示しているかの判読が困難なものは，施設（職員）に分類した。
（ii）自由記述内容に，直接，「国」や「自治体」という表記が無い場合も，法制度のあり方や支援のあり方，仕組み等に関する内容は，国・自治体に向けた内容として分類した。
（iii）質問項目には，「国や自治体（都道府県や市区町村），施設等に」とあるが，それ以外に，社会や一般市民に向けて発していると思われる内容や，調査協力者（回答者）自身の思い・気持ちを綴った内容がある。これらは新たにコード，カテゴリー化した。

544 人の自由記述回答内容を意味のまとまりごとにセグメント化すると，その数は 910 となった。この 910 のセグメントをもとにコードを生成し，各コードの比較，関係性を検討，カテゴリー化する作業を行った。

なお，本稿「Ⅲ．研究結果」に示した各表の「自由記述回答の例示（一部抜粋）」は，セグメントを示す。「自由記述回答内容の抜粋（例示）」に示した〈〉内の番号はセグメントの番号である。

以下，生成されたカテゴリー，コードについては，大カテゴリーを〔〕，中カテゴリーを〖〗，小カテゴリーを【】，コードを《》，セグメントにあたる自由記述回答内容の抜粋（例示）を「」で示す。

3. 倫理的配慮

本研究は，先に実施された全国調査の二次分析である。全国調査実施に際して，既に倫理的配慮がなされている。その結果，得られた自由記述回答内容は，報告書に掲載されたものであり，公表されている。その点を踏まえたうえで，「佛教大学研究倫理指針」，「一般社団法人日本社会福祉学会研究倫理規程」を遵守した。

III. 研究結果

1. 分析結果の全体像

「国・自治体・施設等に伝えたいこと」の自由記述回答内容を分析した結果の全体像についてカテゴリーのみを挙げたものは，表 3 のとおりである。

定性的コーディングでは，先述のように，コードを生成し，各コードの比較，関係性を探りながら，カテゴリー化して全体を統合する。本研究では，自由記述回答内容のセグメント数が910あり，生成コードも76と多岐に渡るため，先に分析結果の全体像，すなわち，生成カテゴリーを概観したうえで，各カテゴリー，コードについて掘り下げて説明していきたい。

まず，大カテゴリーについてである。本質問項目には，「国や自治体（都道府県や市区町村），施設等に何か伝えたいこと」とある。したがって，分析にあたっては，「国」，「自治体」，「施設等」に向けて，それぞれ「伝えたいこと」の内容を分類できると予測した。しかし，実際に個々の自由記述回答を検討していくと，例えば*「施設で育った子に対する偏見がなくなってほしい」〈413〉*（表5-1-2）のように，国や自治体，施設に向けてというよりも，「社会」あるいは「一般市民」に向けて発せられたと思われる声が挙がっていた。また，本アンケート調査への回答者自身の思いや気持ちの表現，本アンケート調査に関する意見・要望が含まれていた。こうした自由記述回答内容も，「伝えたいこと」の貴重なデータである。

このような気づきを経て，分析した結果，大カテゴリーを，〔施設等に「伝えたいこと」〕，〔国・自治体・社会に「伝えたいこと」〕，〔私自身の思い・気持ちについて「伝えたいこと」〕，〔本アンケート調査について「伝えたいこと」〕の4つに分類できた。

以下，まずはそれぞれの大カテゴリーに即して，分析結果を概観する（表3）。ここでは，生成されたカテゴリーに関する内容の説明にとどめ，各カテゴリーとコード，コードを生成するもととなったセグメント，すなわち自由記述回答の例示は次節「2.」以降で述べる。

（1）施設等に「伝えたいこと」

大カテゴリー〔施設等に「伝えたい」こと〕には，〖児童相談所に「伝えたいこと」〗，〖一時保護所に「伝えたいこと」〗，〖里親（里親制度・里親委託を含む）に「伝えたいこと」〗，〖施設（職員）に「伝えたいこと」〗の4つの中カテゴリーが含まれる。

これら4つの中カテゴリーのうち，〖施設（職員）に「伝えたいこと」〗には，【入所中の支援に関する要望】，【退所後の支援に関する要望】，【よかったこと，感謝の気持ち】の3つの小カテゴリーが生成された。

なお，他の3つの中カテゴリーは，セグメント数，コード数も少なく，小カテゴリーの作成には至らなかった。

（2）国・自治体・社会に「伝えたいこと」

大カテゴリー〔国・自治体・社会に「伝えたいこと」〕は，〖社会的養護に関する支援・制度・環境整備のあり方〗，〖子ども・若者への政策，支援のあり方〗，〖社会福祉のあり方〗の3つの中カテゴリーが含まれる。

これら3つの中カテゴリーのなかで，〖社会的養護に関する支援・制度・環境整備のあり方〗には，【個々のニーズに即した支援・制度の改善・充実】，【環境整備や支援体制の改善・充実】の2つの小カテゴリーが生成された。

なお，他の2つの中カテゴリーは，セグメント数，コード数も少なく，小カテゴリーの作成には至らなかった。

(3) 私自身の思い・気持ちについて「伝えたいこと」

大カテゴリー〔私自身の思い・気持ちについて「伝えたいこと」〕は，分析の結果，このカテゴリーのみが生成された。

(4) 本アンケート調査について「伝えたいこと」

大カテゴリー〔本アンケート調査について「伝えたいこと」〕は，分析の結果，このカテゴリーのみが生成された。

表3 「国・自治体・施設等に『伝えたいこと』」（自由記述回答）のカテゴリー一覧

〔大カテゴリー〕	〖中カテゴリー〗	【小カテゴリー】	本文中の表番号
施設等に「伝えたいこと」	児童相談所に「伝えたいこと」	—	表4-1
	一時保護所に「伝えたいこと」	—	表4-2
	里親（里親制度・里親委託を含む）に「伝えたいこと」	—	表4-3
	施設（職員）に「伝えたいこと」	入所中の支援に関する要望	表4-4-1
		退所後の支援に関する要望	表4-4-2
		よかったこと，感謝の気持ち	表4-4-3
国・自治体・社会に「伝えたいこと」	社会的養護に関する支援・制度・環境整備のあり方	個々のニーズに即した支援・制度の改善・充実	表5-1-1
		環境整備や支援体制の改善・充実	表5-1-2
	子ども･若者への政策, 支援のあり方	—	表5-2
	社会福祉のあり方	—	表5-3
私自身の思い・気持ちについて「伝えたいこと」			表6
本アンケート調査について「伝えたいこと」			表7

2. 施設等に「伝えたいこと」

〔施設等に「伝えたいこと」〕は，〖児童相談所に「伝えたいこと」〗，〖一時保護所に「伝えたいこと」〗，〖里親（里親制度・里親委託を含む）に「伝えたいこと」〗，〖施設（職員）に「伝えたいこと」〗の4つの中カテゴリーに分類できた。

以下，各カテゴリーと生成されたコードについて説明する。

(1) 児童相談所に「伝えたいこと」

〖児童相談所に「伝えたいこと」〗は，自由記述回答のなかで17件みられた。《子どもに向き合ってほしい》，《施設入所後も関わってほしい》，《虐待対応を徹底してほしい》，《CWr. が

よくみてくれた》,《感謝している》の 5 つのコードから生成される（表 4-1）。

最も多かった内容は，*「意見をしっかり聞いて」〈685〉* や，*「子供に 1 番合った対応を」〈634〉* といった，〖子どもに向きあってほしい〗というもので 11 件みられた。また，*「担当の切り替わり」〈20〉* が困ったこととして挙げられている点や，《施設入所後も関わってほしい》という要望からは，措置後の児童相談所による関わりの一貫性や継続性，施設との連携が求められている。

また，*「よく見てくれる方だった」〈620〉*，*「【私】と家族を引き離してもらえて」〈800〉* という内容からは，児童相談所（職員）の対応に安心できたことがうかがえる。

表 4-1　児童相談所に「伝えたいこと」

コード（計 5）	自由記述回答の例示（一部抜粋）	計 17
子どもに向き合ってほしい	・「子供の意見をしっかり聞いて，もっと向き合える様なシステム作り」〈685〉 ・「子供にもっと向き合いその子供に 1 番合った対応をして頂けたら」〈634〉 ・「担当の切り替わりが異常に多いので（中略）正直困りました」〈20〉	11
施設入所後も関わってほしい	・「施設と児相の連携が取れてない」〈629〉 ・「日常的に施設内で，子ども達の声を聴いて欲しかった」〈74〉	3
虐待対応を徹底してほしい	・「虐待被害等が完全に無くなるよう，児相は徹底して対応して欲しい」〈368〉	1
CWr. がよくみてくれた	・「担当ケースワーカーさん（中略）が自分をよく見てくれる方だったので，沢山助けていただきました」〈620〉	1
感謝している	・「児相に【私】と家族を引き離してもらえて本当に感謝しています」〈800〉	1

注：「自由記述回答の例示（一部抜粋）」にある〈〉の数字は，セグメントの番号である。
表中右側の数字は，各コードにおけるセグメント数で，右最上段は，セグメント数の合計である。

（2）一時保護所に「伝えたいこと」

〖一時保護所「伝えたいこと」〗には，16 件の自由記述回答があった。《環境を改善してほしい》,《優しく対応してほしい》,《感謝している》の 3 つのコードから生成される（表 4-2）。

最も多かった記述は，《環境を改善してほしい》に関するもので 12 件あった。*「快適に保護できる場所になってくれれば」〈818〉*，*「厳しいルール」〈220〉* という内容がある。また，*「優しくして」〈219〉* という声からは，一時保護所における子どもの保護環境や対応について安心感や優しさを求めていることが示唆された。「ただで病院行かせてくれてありがとう」〈631〉には，それまでに病院に行くことができない環境にあったことが推察され，ほっとした思いを受けとめることができる。

表 4-2　一時保護所に「伝えたいこと」

コード（計 3）	自由記述回答の例示（一部抜粋）	計 16
環境を改善してほしい	・「快適に保護できる場所になってくれればなと思います」〈818〉 ・「無駄に厳しいルールをなくしてほしい（中略）息苦しい」〈220〉	12
優しく対応してほしい	・「対応がよくなかったので，もっと優しくしてほしかった」〈219〉	3
感謝している	・「ただで病院行かせてくれてありがとう〈631〉	1

注：「自由記述回答の例示（一部抜粋）」にある〈〉の数字は，セグメントの番号である。
　表中右側の数字は，各コードにおけるセグメント数で，右最上段は，セグメント数の合計である。

(3) 里親（里親制度・里親委託を含む）に「伝えたいこと」

〖里親（里親制度・里親委託を含む）に「伝えたいこと」〗には，19 件の自由記述回答がみられた。《里親委託の支援のあり方や仕組みを改善してほしい》，《里親制度を広めてほしい》，《里親（委託）でよかった》の 3 つのコードが生成された（表 4-3）。

最も多かったものは，《里親委託の支援のあり方や仕組みを改善してほしい》というもので 8 件ある。具体的には*「末永く安定した関係性」〈275〉*の構築や，*「うまくいかない子たちの問題」〈502〉*という里親とのマッチングに関する課題，*「自立後に置かれる環境は，本質的には施設出身者と変わらない」〈903〉*という措置解除の支援のあり方に関する課題が浮かび上がる。

《里親制度を広めてほしい》，《里親（委託）でよかった》というコードは，里親委託に関する肯定的な評価を示すものである。*「歓迎してくれる」〈900〉*，*「とても良かった」〈612〉*には措置解除後も連絡が取れていたり，同居できていることへの安心感がうかがえる。

表 4-3　里親（里親制度・里親委託を含む）に「伝えたいこと」

コード（計 3）	自由記述回答の例示（一部抜粋）	計 19
里親委託の支援のあり方や仕組みを改善してほしい	・「養子縁組のように末長く安定した関係性を築くことのできる仕組みが整備されることを望みます」〈275〉 ・「里親のところで，またうまくいかない子たちの問題も（中略）気づいて」〈502〉 ・「自立後に置かれる環境は，本質的には施設出身者と変わらない」〈903〉	8
里親制度を広めてほしい	・「制度の知名度アップのために（中略）講演会などを開催してほしい」〈906〉	4
里親（委託）でよかった	・「里親委託になったおかげで解除後も（中略）一緒に過ごせているため，貯金をしたり仕事ができていることでとても良かったと思っています」〈612〉 ・「里親はいつ連絡しても嫌がらず歓迎してくれる」〈900〉	7

注：「自由記述回答の例示（一部抜粋）」にある〈〉の数字は，セグメントの番号である。
　表中右側の数字は，各コードにおけるセグメント数で，右最上段は，セグメント数の合計である。

(4) 施設（職員）に「伝えたいこと」

〖施設（職員）に「伝えたいこと」〗への自由記述回答は445件あり，大変多かった。これらの445件から生成されたコード数は22である。内容が多岐にわたっていることから，コードとコードとの関係性や比較を行い，【入所中の支援に関する要望】，【退所後の支援に関する要望】，【よかったこと，感謝の気持ち】の3つの小カテゴリーを生成，分類した。それぞれの小カテゴリーにおいて生成されたコードは以下のようである。

①施設（職員）に「伝えたいこと」－入所中の支援に関する要望

【入所中の支援に関する要望】は，169件の自由記述回答がみられた。《退所後の生活に向けた支援が必要》，《一人ひとりと向き合ってほしい》，《子どもの気持ちを聴いてほしい》，《これからも子どもを助けてあげてほしい》，《子どもの思いや個性を尊重してほしい》，《ルールや制限を緩和してほしい》，《入所中の支援を充実してほしい》，《安心できる生活環境，場であってほしい》，《進路・進学・就職に向けた支援の充実》の9つのコードが生成された（表4-4-1）。

最も多かったものは，《退所後の生活に向けた支援が必要》というもので，35件である。*「相談できるところ」〈147〉*，*「将来に向けての金銭管理の仕方」〈456〉*，*「退所前に必ず税金の知識や国の福祉を教えて」〈840〉*といった，退所後の生活に向けた支援（知識や経験など）を入所中から望む内容であった。また，入所中からの退所に向けた支援と関連する《進路・進学・就職に向けた支援の充実》では，*「高い目標を持つ子どももいる」〈428〉*といった，大学や大学院，専門学校等，一人ひとりの希望に応じた支援が求められていることが示唆された。

次に，《一人ひとりと向き合ってほしい》，《子どもの気持ちを聴いてほしい》，《子どもの思いや個性を尊重してほしい》というコードからは，一人ひとりに寄り添ってほしいというニーズが読み取れる。そして，それらのニーズは，回答した本人だけではなく，《これからも子どもを助けてあげてほしい》という今後の支援への期待や，《入所中の支援を充実してほしい》という要望ともつながっている。

こうした支援の充実に向けて，《ルールや制限を緩和してほしい》，《安心できる生活環境，場であってほしい》という施設環境の改善に向けた要望がある。*「施設は（中略）生活する子供たちの家であり，心と体を育てる大事な基礎となる場所であってほしい」〈503〉*という記述からは，支援基盤としての環境や場のもつ意味が示されている。

表4-4-1　施設（職員）に「伝えたいこと」－入所中の支援に関する要望

コード（計9）	自由記述回答の例示（一部抜粋）	計169
退所後の生活に向けた支援が必要	・「相談できるところをもっと積極的にみんなに周知して欲しい」〈147〉 ・「独り立ちするとき必要な常識を教えて欲しかった」〈277〉 ・「将来に向けての金銭管理の仕方を教えてあげてほしい」〈456〉 ・「退所前に必ず税金の知識や国の福祉を教えてあげる必要がある」〈840〉	35

一人ひとりと向き合ってほしい	・「もっと一人一人と向き合ってほしい」〈183〉 ・「もう少し子どもに寄り添うべき」〈169〉	34
子どもの気持ちを聴いてほしい	・「子供達の声にしっかり耳を傾けてください」〈778〉 ・「整理できていないことがあるので，焦らせずに答えを待ってほしい」〈871〉	20
これからも子どもを助けてあげてほしい	・「これからも多くの子を助けてあげて欲しい」〈662〉 ・「これからもずっと児童思いの施設であって欲しい」〈808〉	19
子どもの思いや個性を尊重してほしい	・「児童の思ってることを（中略）尊重してほしい」〈171〉 ・「やりたいことをやらせてあげて欲しい」〈490〉	17
ルールや制限を緩和してほしい	・「ルールに縛られ過ぎず自由に生活できる環境」〈320〉 ・「お世話になるというより管理されている感が強かった」〈860〉	14
入所中の支援を充実してほしい	・「入所してからが大事（中略）。施設にしか出来ないことがたくさんある」〈758〉 ・「職員によって対応が違うこと，質問の答えが違うことに戸惑った」〈700〉	14
安心できる生活環境，場であってほしい	・「施設は（中略）生活する子供たちの家であり，心と体を育てる大事な基礎となる場所であってほしい」〈503〉。	9
進路・進学・就職に向けた支援の充実	・「高い目標を持つ子どももいるということを念頭に置いて教育を行って」〈428〉 ・「退所する前とか就活等の際にもう少し支えてあげて欲しい」〈715〉	7

注：「自由記述回答の例示（一部抜粋）」にある〈〉の数字は，セグメントの番号である。
　　表中右側の数字は，各コードにおけるセグメント数で，右最上段は，セグメント数の合計である。

②施設（職員）に「伝えたいこと」ー退所後の支援に関する要望

【退所後の支援に関する要望】は，53 件の回答がみられた。《職員に会いたい，あたたかく迎えてほしい》，《連絡がほしい，みまもってほしい》，《継続してサポートしてほしい》，《在所者や退所者に会いたい》の 4 つのコードが生成された（表 4-4-2）。

最も多かったものは，《職員に会いたい，あたたかく迎えてほしい》で 25 件ある。いずれのコードからも，退所後も施設や職員とのつながりを望んでいることが浮かび上がった。*「里帰りする時」〈508〉*，*「他愛もない話ができるとか，会いに行ったりとか，そういう環境」〈434〉*のように，施設を実家のようにとらえている表現がある。また，*「カウンセリングを受けられるようにして」〈835〉*のように，退所後も継続した環境や人により心理的ケアなどの専門的な支援を望む声がある。

表 4-4-2　施設（職員）に「伝えたいこと」ー退所後の支援に関する要望

コード（計 4）	自由記述回答の例示（一部抜粋）	計 53
職員に会いたい，あたたかく迎えてほしい	・「施設に帰ってきた際，暖かく迎えて欲しい」〈467〉 ・「施設へ里帰りする時，宿泊出来るような設備があればいいなと思います」〈508〉 ・「他愛もない話ができるとか，会いに行ったりとか，そういう環境」〈434〉	25
連絡がほしい，みまもってほしい	・「不安があると思うので連絡，相談を聞いてあげて欲しい」〈825〉 ・「今後とも暖かい目で見守って頂けると幸いです」〈383〉	17
継続してサポートしてほしい	・「施設を出てから（中略）不安なことがあったら相談します」〈523〉 ・「退所後しばらくは希望者にカウンセリングを受けられるようにして欲しい」〈835〉	7
在所者や退所者に会いたい	・「一緒に施設で過ごしてきた同年代の人たちと連絡を取れるようにしたい」〈223〉 ・「退所者対象に同窓会などをしてもらいたい」〈141〉	4

注：「自由記述回答の例示（一部抜粋）」にある〈〉の数字は，セグメントの番号である。
　　表中右側の数字は，各コードにおけるセグメント数で，右最上段は，セグメント数の合計である。

③施設（職員）に「伝えたいこと」ーよかったこと，感謝の気持ち

【よかったこと，感謝の気持ち】は，223 件の回答がみられた。《感謝している》，《支えてくれた，助けられた》，《経験できた，学んだ，成長できた》，《よかった，楽しかった》，《育ててくれた，お世話になった》，《退所後も連絡をくれる，気にかけてくれる》，《今も大切な存在，親・我が家のよう》，《親身になってくれた，尊重してくれた》，《ご飯が美味しかった，部屋や机があった》の 9 つのコードから生成された（表 4-4-3）。

最も多かったものは，施設（職員）に《感謝している》で 84 件である。

また，《支えてくれた，助けられた》，《経験できた，学んだ，成長できた》，《育ててくれた，お世話になった》，《親身になってくれた，尊重してくれた》，《ご飯が美味しかった，部屋や机があった》という経験は，《感謝している》，《よかった，楽しかった》とも関連する。

《退所後も連絡をくれる，気にかけてくれる》，《今でも大切な存在，親・我が家のよう》とコードでは，*「退所後も」〈262〉*，*「今でも」〈590〉* という表現のなかに，退所後も変わらないという思いが安心感につながっていることが示唆される。

表 4-4-3　施設（職員）に「伝えたいこと」ーよかったこと，感謝の気持ち

コード（計 9）	自由記述回答の例示（一部抜粋）	計 223
感謝している	・「施設の先生，食堂の方，掃除の方，本部の方一瞬でも関わった人に感謝の気持ちを伝えたいです」〈314〉	84
支えてくれた，助けられた	・「ヤンチャな自分を最後まで支えてくれました」〈679〉 ・「児童養護施設が無ければ私は死んでいたと思います」〈575〉	33
経験できた，学んだ，成長できた	・「人間らしい生活ができて（中略）プラスになる事が多かった」〈379〉 ・「施設で過ごした 1 年 1 年が私を大きく成長させてくれました」〈592〉 ・「家から離れて，人の大切さ自分を大事にすることを学びました」〈568〉	31

よかった，楽しかった	・「私は施設に入れて良かったと感じています」〈603〉 ・「良かった事も悪かった事もありますが今思えば楽しかったです」〈482〉	21
育ててくれた，お世話になった	・「【幼児期】から育ててくれてありがとう」〈38〉 ・「今までお世話になりました」〈327〉	16
退所後も連絡をくれる，気にかけてくれる	・「退所後も連絡を取ってくれることで安心できています」〈262〉 ・「顔を見に来てくれたり相談や話したいことを最後まで聞いてくれる」〈826〉	13
今でも大切な存在，親・我が家のよう	・「施設での思い出や関わりは生涯大切にしたいと思っています」〈398〉 ・「長い期間育ててくれた先生を今でも本当の【親】のように思います」〈590〉	12
親身になってくれた，尊重してくれた	・「施設の方達が親身になってくれたのでとても嬉しかった」〈248〉 ・「自分の意見や意志を尊重して貰えることがとても嬉しかった」〈661〉	9
ご飯が美味しかった，部屋や机があった	・「施設のご飯美味しかったです」〈487〉 ・「自分の部屋と勉強机もありました」〈557〉	4

注：「自由記述回答の例示（一部抜粋）」にある〈〉の数字は，セグメントの番号である。
　　表中右側の数字は，各コードにおけるセグメント数で，右最上段は，セグメント数の合計である。

3. 国や自治体（都道府県や市区町村），社会に「伝えたいこと」

〔国・自治体，社会に「伝えたいこと」〕は，〖社会的養護に関する支援・制度・環境整備のあり方〗，〖子ども・若者への政策，支援のあり方〗，〖社会福祉のあり方〗の3つの中カテゴリーに分類できた。

以下，各カテゴリーと生成されたコードについて述べる。

（1）社会的養護に関する支援・制度・環境整備のあり方

〖社会的養護に関する支援・制度・環境整備のあり方〗への自由記述回答は265件あり，大変多かった。これらの265件から生成されたコード数は23である。内容が多岐にわたっていることから，コードとコードとの関係性や比較を行うなかで，【個々のニーズに即した支援・制度の改善・充実】，【環境整備や支援体制の改善・充実】の2つの小カテゴリーを生成，コードを分類した。それぞれの小カテゴリーにおいて生成されたコードは以下の通りである。

①社会的養護に関する支援・制度・環境整備のあり方ー個々のニーズに即した支援・制度の改善・充実

【個々のニーズに即した支援・制度の改善・充実】は，142件の自由記述がみられた。《退所後の生活費等支援の充実》，《退所後の生活面のサポート》，《奨学金制度の充実》，《進学・就職に向けた支援》，《制度やケア，サポートの改善・充実》，《緊急連絡先や身元保障，後見人》，《気軽に相談できる人や場》，《親や家族との関係の相談》，《お金の管理・使い方への支援》，《退所後，心のケア・精神面サポート》，《退所者同士の交流》，《子どもを持つ人へのサポート》，《一時的住まいの提供》の13のコードから生成された（表5-1-1）。

これらのコードの多くは，措置解除後，退所後の支援・制度に関わるものであるが，《奨学金制度の充実》や，《進学・就職に向けた支援・制度》，《制度やケア，サポートの改善・充

実》,《緊急連絡先や身元保障，後見人》,《気軽に相談できる人や場》,《親や家族との関係の相談》,《お金の管理・使い方への支援》は，措置中，入所中に求められる支援・制度でもある。

換言すると，ここに示された 13 のコードは子どものニーズであり，措置中には社会的養護の制度のもとでは担保される（保障される）環境にあるが，退所後には担保されていない・担保されにくい（保障されにくい）環境にあるといえる。例えば,《緊急連絡先や身元保障，後見人》,《進学・就職に向けた支援》,《お金の管理・使い方への支援》などは，退所後に本人の困ったことやニーズとして表出されうる。

子どもにとって，入所中と退所後では，おかれている状況，生活環境が大きく変わる。*「相談など気軽に出来る大人の人と，在籍中から繋がれる仕組み」〈69〉* のように，退所後の生活のなかで他の社会資源や制度とつながったり，利用できる支援を，入所中の支援過程のなかで紡いでいくことが求められる。

表 5-1-1　社会的養護に関する支援・制度・環境整備のあり方ー個々のニーズに即した支援・制度の改善・充実

コード（計 13）	自由記述回答の例示（一部抜粋）	計 142
退所後の生活費等支援の充実（注．奨学金を除く）	・「施設退所者向けの支援金，給付金制度を作って」〈547〉 ・「20 歳を超えてしまうと申し込めないサービスが多（い）」〈311〉	33
退所後の生活面のサポート	・「退所した人たちに対する生活面のサポートを充実させて」〈170〉 ・「退所した子どもたちに対する支援は正直少ない」〈527〉	22
奨学金制度の充実	・「金銭面等を理由に進学を諦めることがないようにしてほしい」〈782〉	17
進学・就職に向けた支援	・「施設には，進学のサポートができる人が必要」〈459〉 ・「高校生の通塾・習い事費用の負担」〈57〉 ・「辞めたあとでも，次の就職先を一緒に見つけてほしい」〈239〉	14
制度やケア，サポートの改善・充実	・「より一層のケアやサービスの提供をお願いいたします」〈427〉 ・「制度の拡充と丁寧なケースワークによるエンパワーメント支援」〈40〉	13
緊急連絡先や身元保障，後見人	・「保証人や緊急連絡先などを要する契約の面では難を感じる」〈332〉 ・「保証人や未成年後見人がいない人へのサポートを手厚くして」〈883〉	11
気軽に相談できる人や場	・「気軽に相談できる場所や人がいたらいいと思う」〈688〉 ・「相談など気軽に出来る大人の人と，在籍中から繋がれる仕組み」〈69〉	11
親や家族との関係の相談	・「実の親との関係について全く改善できてないので不安」〈561〉	6
お金の管理・使い方への支援	・「一番困ったのは，お金の使い方です」〈558〉 ・「施設を退所する際大金を持って出てしまうと，金銭感覚が狂いやすく，すぐ借金してしまう可能性が高くなってしまう」〈850〉	5
退所後，心のケア・精神面サポート	・「精神面のケアを施設在籍中だけでなく退所後も継続して行える環境や制度があるといい」〈251〉	5
退所者同士の交流	・「同年代の退所者同士の交流をもっと増やした方がいい」〈853〉	3
子どもを持つ人へのサポート	・「子供を持つ人達やこれから子供を持とうと言う人達に対してのサポートや保証をしっかりして欲しい」〈375〉	1
一時的住まいの提供	・「一時的な住まいを提供してもらえる場所が欲しい」〈836〉	1

注：「自由記述回答の例示（一部抜粋）」にある〈〉の数字は，セグメントの番号である。
　表中右側の数字は，各コードにおけるセグメント数で，右最上段は，セグメント数の合計である。

②社会的養護に関する支援・制度・環境整備のあり方－環境整備や支援体制の改善・充実

【環境整備や支援体制の改善・充実】は，123 件の自由記述がみられた。《職員へのサポート，労働環境・条件の改善》，《偏見や差別を無くしてほしい》，《安心できる施設環境》，《スマホの所持・ネット環境の整備》，《施設による違い・差の改善》，《社会に向けた発信・周知》，《子どもの意見聴取・参画の仕組み》，《第三者評価・外部評価の仕組み》，《経済的支援への感謝》，《制度があってよかった》の 10 のコードから生成された。これらのコードについて，先に，改善・充実に関する要望を記載し，その後，感謝・よかったというコードを示した（表 5-1-2）。

最も多かったものは，《職員へのサポート，労働環境・条件の改善》で 30 件の記述があった。*「働く人達の給料の底上げや待遇改善等」〈292〉* など，職員の仕事に関する負担や労働条件を心配する記述がみられた。

また，《偏見や差別を無くしてほしい》，《施設による違い・差の改善》，《社会に向けた発信・周知》では，偏見や差別を無くし，生活環境における差異の改善を望む声がある。これらは，《スマホの所持・ネット環境の整備》にも表れている。*「携帯を持てないことでの学校での疎外感」〈876〉*，*「ネット環境を整えてほしい」〈156〉* からは，携帯電話やスマートフォンがもはや当たり前に生活に浸透している現代社会において，施設内外による環境や施設間による違いから，コミュニケーション手段や情報を知る権利の保障とも関わり，改善が必要である。

さらに，《子どもの意見聴取・参画の仕組み》，《第三者評価・外部評価の仕組み》が求められていることも明らかになった。

これらの内容の改善・充足は，子どもにとって《安心できる施設環境》につながり，子どもの権利擁護，権利保障に直結する。

表 5-1-2　社会的養護に関する支援・制度・環境整備のあり方－環境整備や支援体制の改善・充実

コード（計 10）	自由記述回答の例示（一部抜粋）	計 123
職員へのサポート，労働環境・条件の改善	・「働く人達の給料の底上げや待遇改善等」〈292〉 ・「施設職員の数を増やす政策を考えた方がいい」〈855〉	30
偏見や差別を無くしてほしい	・「施設で育った子に対する偏見がなくなってほしい」〈413〉 ・「施設についてのイメージをよくして欲しい」〈458〉	27
安心できる施設環境	・「子供を守る。子供が安心して暮らせるようにする」〈636〉 ・「子供達が少しでも幸せで過ごせる場所であり続けて欲しい」〈480〉	14
スマホの所持・ネット環境の整備	・「携帯を持てないことでの学校での疎外感」〈876〉。 ・「ネット環境を整えてほしい」〈156〉	11
施設による違い・差の改善	・「施設での対応が地域によって差が出てしまっている」〈404〉 ・「自立援助ホーム入所者の待遇を児童養護施設と同等くらいに改善してほしい」〈703〉	6

社会に向けた発信・周知	・「育った人や，施設等の紹介などをもっと発信して」〈414〉	4
子どもの意見聴取・参画の仕組み	・「入居してる方々の意見を定期的に聞いて，その状況を改善」〈692〉 ・「自治体や国のワーキングチームに当事者が委員として入る」〈236〉	2
第三者評価・外部評価の仕組み	・「第三者委員会は設置して終わりじゃない」〈849〉 ・「現場の状況理解の為施設外（中略）による調査」〈864〉	2
経済的支援への感謝	・「支援金をいただきありがとうございます」〈705〉 ・「奨学金の制度も変わってきて，私自身も救われています」〈726〉	16
制度があってよかった	・「18 歳以降も施設にいれるようになった〈中略〉助かる制度」〈64〉	11

注：「自由記述回答の例示（一部抜粋）」にある〈〉の数字は，セグメントの番号である。
表中右側の数字は，各コードにおけるセグメント数で，右最上段は，セグメント数の合計である。

(2) 子ども・若者への政策，支援のあり方

〖子ども・若者への政策，支援のあり方〗は，49 件の自由記述回答がみられた。《困っている子どもの発見と支援》，《子ども・若者への支援の充実》，《個々のニーズへの支援》，《虐待への対応》，《安心できる環境》，《夢を持つこと》，《相談先へのアクセス，情報提供》，《人権の尊重》の 8 つのコードから生成された（表 5-2）。

これらのコードは，前述の〖社会的養護に関する支援・制度・環境整備のあり方〗とも関連するが，特に，施設や里親等における支援・制度・環境整備に限定していないと思われる内容を示している。

最も多かったものは，《困っている子どもの発見と支援》で 14 件の記述があった。このコードは他のコードとも関連する。例えば，*「里親さん，施設，自援に入所しましたがもっと早く相談する場がある事，親以外に頼れる場所　寝れる場所がある事を知っておきたかった」〈50〉* は，施設等に入所する前に，相談先や頼れる場所を知りたかったという《相談先へのアクセス，情報提供》の課題があるが，そのためには《困っている子どもの発見と支援》が不可欠である。

また，*「外国籍や無国籍の方々」〈237〉*，*「貧困状態にある子どもたち」〈891〉*，*「虐待されているかなって思ったら」〈372〉* など，個々の子どものおかれている状況に即した支援や，援助希求が無くても気づいてほしいという要望が《個々のニーズへの支援》，《虐待への対応》として，浮き彫りになった。

表 5-2　子ども・若者への政策，支援のあり方

コード（計 8）	自由記述回答の例示（一部抜粋）	計 49
困っている子どもの発見と支援	・「もっと困ってる子供たちを見つけて欲しい。寄り添ってあげてほしい」〈186〉 ・「助けを必要としている子の声をどうか聞き逃さないで下さい」〈739〉	14

子ども・若者への支援の充実	・「もっと若者や子供に対しての福祉を充実させていく必要がある」〈336〉 ・「国や自治体からの援助を，必要としている子ども達のためにもっと多様化して」〈573〉	12
個々のニーズへの支援	・「外国籍や無国籍の方々にもう少し向き合って欲しい」〈237〉 ・「貧困状態にある子どもたちひとりひとりに目を向けてほしい」〈891〉	7
虐待への対応	「虐待されてるかなって思ったら周りの大人達がすぐ助けてあげて」〈372〉	6
安心できる環境	・「こどもが安心して食事，睡眠，勉強ができる環境にして欲しい」〈179〉	3
夢を持つこと	・「夢を持てるようにしてほしい」〈516〉	3
相談先へのアクセス，情報提供	・「里親さん，施設，自援に入所しましたがもっと早く相談する場がある事，親以外に頼れる場所　寝れる場所がある事を知っておきたかった」〈50〉	3
人権の尊重	・「子供の人権の尊重」〈370〉	1

注：「自由記述回答の例示（一部抜粋）」にある〈〉の数字は，セグメントの番号である。
表中右側の数字は，各コードにおけるセグメント数で，右最上段は，セグメント数の合計である。

(3) 社会福祉のあり方

〖社会福祉のあり方〗は，6件の記述がみられた。これらは，《社会福祉政策の改善・充実》という1つのコードに生成された（表5-3）。

*「社会福祉により力を入れること」〈291〉*のほか，成人後の施設利用に関して，*「女性の【福祉施設】入居希望者が入居出来るように」〈204〉*などが挙がっている。

表5-3　社会福祉のあり方

コード（計1）	自由記述回答の例示（一部抜粋）	計6
社会福祉政策の改善・充実	・「国や【都道府県】に伝えたいことは社会福祉により力を入れること」〈291〉 ・「もっと女性の【福祉施設】入居希望者が入居出来るようにして欲しい」〈204〉	6

注：「自由記述回答の例示（一部抜粋）」にある〈〉の数字は，セグメントの番号である。
表中右側の数字は，各コードにおけるセグメント数で，右最上段は，セグメント数の合計である。

4. 私自身の思い・気持ちについて「伝えたいこと」

〔私自身の思い・気持ちについて「伝えたいこと」〕は，75件の記述がみられた。《私は頑張っていきたい，活かしていきたい》，《私は子どもたちに幸せになってほしい》，《私は辛い，しんどい》，《私は恩返しをしたい》，《私はあきらめている》，《私は生活できている》，《私は親に覚悟をもってほしい》の7つのコードから生成される（表6）。

《私は頑張っていきたい，活かしていきたい》，《私は恩返しをしたい》といったポジティブな気持ちの表現のほか，《私は子どもたちに幸せになってほしい》という子どもたちへの願い

が記されていた。

また，《私は辛い，しんどい》，《私はあきらめている》，《私は親に覚悟をもってほしい》では，現在の生活の生きづらさ，抱えている困難や課題が浮かび上がる。

表 6　私自身の思い・気持ちについて「伝えたいこと」

コード（計 7）	自由記述回答の例示（一部抜粋）	計 75
私は頑張っていきたい，活かしていきたい	・「立派な社会人になれるように，これからも頑張っていこうと思います〈132〉 ・「施設で学んだことをこれからも活かしていきたいです」〈712〉	21
私は子どもたちに幸せになってほしい	・「一人でも多くの子供たちが幸せに明るく暮らせますように」〈224〉 ・「今後少しでも困っている子どもたちがいなくなることを願っています」〈724〉	17
私は辛い，しんどい	・「生きるのが結構辛い時があります」〈793〉 ・「家族がいない。親の愛を知らずに生きて来るしんどさ。わかりますか？」〈322〉	16
私は恩返しをしたい	・「少しづつ恩返ししたいです」〈14〉	14
私はあきらめている	・「期待していないよ，諦めてる」〈244〉	3
私は生活できている	・「仕事で忙しいこともありますが楽しく日常生活ができてます」〈648〉	3
私は親に覚悟をもってほしい	・「親がしっかり子供育てるという，義務，責任があると思う。子供は悪くないので産んだのなら最後までしっかり育てる覚悟を持って欲しい」〈757〉	1

注：「自由記述回答の例示（一部抜粋）」にある〈〉の数字は，セグメントの番号である。
　　表中右側の数字は，各コードにおけるセグメント数で，右最上段は，セグメント数の合計である。

5. 本アンケート調査について「伝えたいこと」

〔本アンケート調査について「伝えたいこと」〕は，18 件の記述があった。《回答しづらい》，《活かしてほしい》，《期待していない》，《感謝している》の 4 つのコードから生成される（表 7）。

最も多かったものは，《回答しづらい》で 6 件みられた。*「施設と里親家庭・ファミリーホームはかなり違いがあると思うので，一括りに「施設等」としてもよろしいのか疑問に思いました」〈335〉* のように，調査票の「施設等」，「入所」という表現が，里親家庭やファミリーホーム等で育った人にとって回答する上で不快感や違和感を抱いたとする記述が 6 件みられた。

本アンケート調査結果への期待については，《活かしてほしい》，《期待していない》，《感謝している》とあるが，*「なんも期待していない」〈877〉* などの表現をニーズと汲み取り，調査結果を活かしていく必要があろう。

表 7　本アンケート調査について「伝えたいこと」

コード（計 4）	自由記述回答の例示（一部抜粋）	計 18
回答しづらい	・「施設と里親家庭・ファミリーホームはかなり違いがあると思うので，一括りに「施設等」としてもよろしいのか疑問に思いました。（中略）「施設等を退所」という表現の質問もあり少し答えづらかったです」〈335〉	6
活かしてほしい	・「私のアンケートがぜひ活用されて，これから施設等を出て独り立ちされる方々の為になるのなら，この上なく素晴らしいことだと思います」〈245〉 ・「今回のように，もっと私たちの声を聞いて頂けないでしょうか」〈728〉	5
期待していない	・「アンケートやって変わるんならとっくに変わってるよね，なんも期待していない」〈877〉	4
感謝している	・「アンケートを実施し，意見を述べる場を与えていただきありがとうございます」〈122〉	3

注：「自由記述回答の例示（一部抜粋）」にある〈〉の数字は，セグメントの番号である。
　　表中右側の数字は，各コードにおけるセグメント数で，右最上段は，セグメント数の合計である。

IV. まとめと考察

本研究の目的は，全国調査における本人記入調査の調査票の最後の質問項目である「最後に，国や自治体（都道府県や市区町村），施設等に何か伝えたいことがあればメッセージを自由にご記入ください」への回答内容（自由記述回答）を分析し，「伝えたいこと」を明らかにすることであった。また，明らかになった「伝えたいこと」により，社会的養護の措置を離れた当事者への支援のあり方を考察することであった。

定性的コーディングの方法により分析した結果，以下の内容が明らかになった。

第 1 に，「伝えたいこと」の全体像についてである。内容は，「国や自治体（都道府県や市区町村），施設等」に関するものにとどまらず，社会や市民に向けて伝えたいことや，調査回答者自身の抱く思い・気持ち，本アンケート調査に関する意見・要望について記されていた。そのなかには，前述のように，偏見や差別を無くしてほしいという声や，今の生活が辛いという声があり，現状を変えてほしい，気づいてほしいといった当事者の思い，社会に発せられたメッセージが浮き彫りになった。

第 2 に，施設等に「伝えたいこと」についてである。分析の結果，児童相談所，一時保護所，里親（里親制度・里親委託を含む），施設（職員）の 4 つに分類でき，それぞれに向けて具体的なニーズや要望，よかったことや感謝の気持ちが明らかになった。

特に，自由記述回答の件数が多かった施設（職員）に「伝えたいこと」の内容は，入所中の支援，退所後の支援，よかったことや感謝の気持ちが表出されている。

入所中に関しては，向き合ってほしい，聴いてほしい，尊重してほしいという声があり，子どもの聴かれる権利，表現する権利を尊重・保障する支援が求められている。

このほか，入所中では，退所に向けた知識や生活スキル，相談先などを教えてほしいというニーズがあった。入所中から退所後に向けた支援が必要という声の背景には，入所中と退所後の本人のおかれている状況や生活基盤の大きな変化がある。頼りになる人も身近になく，本人自ら生活設計をしていく上で生じる不安や困難さ，課題の一端が浮かび上がる。

退所後に関しては，施設（職員）と連絡をとったり，みまもってほしいという内容が多かった。措置解除後も，本人にとっては実家のような存在を望んでいることが示唆された。

第3に，社会的養護のあり方や，子ども・若者への支援のあり方についてである。分析結果からは，社会的養護の支援について，個人への支援と，施設環境や支援体制の改善・充実の双方が求められていた。

前述のように，2022年6月の児童福祉法改正により，社会的養護経験者への自立支援の強化が打ち出された。これにより，都道府県において措置解除者等の実情を把握し必要な援助を行うことが業務として位置づけられた。また，住居の提供や相談支援などを行う自立生活援助事業が児童養護施設等に拡充し，新たに，支援先へのつなぎ等の支援を行う拠点としての社会的養護自立支援拠点事業が位置づけられた。これらの制度の拡充や新設は，本研究において調査回答者による「伝えたいこと」の分析結果にみられる個々のニーズに即した支援に関する要望とも重なり，早期の具現化が期待される。

それらの改善・充実とあわせて重要なことは，社会的養護における環境整備や支援体制のあり方である。分析結果からは，労働条件の改善を含む職員へのサポート，偏見や差別を無くすこと，スマートフォンやインターネット環境など日常生活ニーズの充足，子どもの意見聴取・参画や外部評価の仕組みが挙げられていた。国が実施した本アンケート調査の目的は，「措置解除者等の生活状況や生活上の課題，支援ニーズ等を把握・整理すること」であるが，自由記述欄に記載されていた「伝えたいこと」からは，措置解除後の支援に限定されない環境整備や支援体制を含めた社会的養護のあり方そのものに関する貴重な意見が明示された。

さらに，子ども・若者への支援のあり方からは，いわゆる「要保護児童」や「要支援児童」への支援が求められており，子どものニーズにいかにして気づくかが課題として明らかになった。

このように，社会的養護や，子ども・若者への支援のあり方について「伝えたいこと」からは，措置解除後の支援の改善・充実にとどまらず，子どもの最善の利益を保障するための福祉のあり方を検討するうえで重要な示唆が提示されている。

V. 結びにかえて

本研究の出発点では，本アンケート調査の目的から，調査協力者である社会的養護経験者が「伝えたいこと」について，本人がこれまでに受けた支援の評価や退所後の支援への要望が記

されていると理解していた。確かにそれらの内容は自由記述回答の多くを占めていたが，社会的養護や，子ども・若者支援のあり方について，支援体制や支援環境の改善を求める内容が浮かび上がり，社会に向けて発せられた意見も表出されていた。

本研究の限界は，前述のように，本アンケート調査の回収率は 14.4% であり，措置解除者全体の状況を示しているものではない。調査協力については，施設等から本人への依頼がされており，その意味でも比較的施設等とつながりのある人が回答している可能性もある。また，定性的コーディングの作業プロセスでは，コード，カテゴリーの関係性や比較しながら分析の精緻化に努めたが，自由記述内容の読み取り方や理解が十分至っているとは必ずしもいえない。

しかしながら，「伝えたいこと」に回答してくださった 544 人の自由記述内容は大変貴重であり，今後の支援のあり方を考慮すべき内容が多々含まれている。

これらの内容は政策・実践面の方向性や課題に示唆を与えるものであるが，今後の研究を進めていく上でも検討すべき課題が投じられている。今後の研究課題としたい。

〔注〕

⑴　自治体が行った施設等退所者を対象とした調査報告書として，以下のようなものがある。東京都福祉保健局（2005, 2017），大阪市（2012），埼玉県（2013），兵庫県（2015），京都市（2017），大阪府（2017），名古屋市（2017），神戸市（2017）。また，当事者主体の活動として，IFCA（2012 年設立）などがある。

⑵　全国調査結果は，以下の報告書を参照。令和 2 年度子ども・子育て支援推進調査研究事業「児童養護施設等への入所措置や里親委託等が解除された者の実態把握に関する全国調査【報告書】」（2021（令和 3）年 3 月），三菱 UFJ リサーチコンサルティング。

⑶　本研究で定性的コーディングを用いた理由は，自由記述回答において，語られている内容の意味を理解し，説明する上で帰納的な方法が適していると考えたためである。自由記述回答内容を質的データととらえ，意味を明確にし，解釈を加えて概念化する作業を行い，「伝えたいこと」は何かを明らかにすることを志向した。

〔参考文献〕

・古川孝順・庄司洋子・大橋謙策・村井美紀（1983）「養護施設退園者の生活史分析」『社會事業の諸問題』日本社會事業短期大學研究紀要（29）．151-263.

・Goodman, Roger（2000）*Children of the Japanese State: The Changing Role of Child Protection Institution in Contemporary Japan,* Oxford University Press（＝2006，津崎哲雄訳『日本の児童養護－児童養護学への招待－』明石書店）.

・伊部恭子（2023）「社会的養護経験者がふりかえるケアに関する評価－全国調査の自由記述回答から－」佛教大学　社会福祉学部論集（19），115-136.

・伊部恭子（2022）「社会的養護経験者の現在の暮らしにおける困難と支援課題－全国調査の自由記述回答からみえてきたこと－」佛教大学　社会福祉学部論集（18），107-127.

・伊部恭子（2018）「社会的養護経験者が語る『支えられた経験』とその意味－15 人への生活史聴き取りを通して」佛教大学福祉教育開発センター紀要（15），35-56.

・松本伊智朗（1987）「養護施設卒園者の『生活構造』－『貧困』の固定的性格に関する一考察」『北海

道大学教育学部紀要』（49），43-119.
・村井美紀ほか（2005）「要保護年長児童の自立に関する研究」平成 16 年度厚生労働科学研究（子ども家庭総合研究事業）報告書.
・永野咲（2017）『社会的養護のもとで育つ若者の「ライフチャンス」－選択肢とつながりの保障，「生の不安定さ」からの解放を求めて－』明石書店.
・西田芳正編著，妻木進吾，長瀬正子，内田龍史（2011）『児童養護施設と社会的排除－家族依存社会の臨界－』解放出版社.
・大村海太（2015）「児童養護施設退所者への自立支援の歴史に関する一考察（1）－戦前から 1990 年代前半までの政策に焦点を当てて－」駒沢女子短期大学「研究紀要」（48）53-60.
・大村海太（2017）「児童養護施設退所者への自立支援の歴史に関する一考察（2）－1990 年代後半から現在までの政策に焦点をあてて－」駒沢女子短期大学「研究紀要」（50）43-53.
・佐藤郁哉（2008）『質的データ分析法－原理・方法・実践－』新曜社
・谷口由希子（2011）『児童養護施設の子どもたちの生活過程－子どもたちはなぜ排除状態から抜け出せないのか』明石書店.
・全国自立援助ホーム協議会（2020）『2018 年度　全国自立援助ホーム退居者の生活状況に関する調査報告書』

〔付記〕

本研究は，「令和 2 年度　子ども・子育て支援推進調査研究事業「児童養護施設等への入所措置や里親委託等が解除された者の実態把握に関する全国調査【報告書】」において公表された自由記述回答内容をもとに分析した。

（いべ　きょうこ　社会福祉学科）
2023 年 11 月 15 日受理